

公文書館機能向上に向けた取組について

1 公文書館機能の強化に向け実施した取組

(1) 中性紙保存箱の整備

中性紙保存箱を500箱整備。保存箱に収納されていない簿冊、現在の保存箱が破損している簿冊等について優先的に新しい保存箱に収納し、特定歴史公文書の酸化抑制等保存環境の向上を図る。

〔参考〕

平成25年度170箱、平成26年度500箱、平成27年度382箱 計1,052箱

(注) 整備計画数であり、購入時の価格により整備数の変動あり。

(2) 保存環境の整備

害虫調査

特定歴史公文書専用書庫全体を対象に書庫に生息する害虫(ゴキブリ、シミ、シバンムシ等)の調査を実施。トラップ(わな)を書庫の四隅や壁際等に設置し、捕獲した害虫を専門業者に提供し、害虫の分析及び防除対策の助言を得る。

機器点検

除湿機の点検、フィルター清掃等を実施。

(3) 県立図書館との連携

県政情報文書課の特定歴史公文書のホームページにおいて、県立図書館では加藤・細川時代の検地帳や戦前県庁に保管されていた県政資料(公文書、記録類)など古文書約4万点が所蔵されていることについてリンクを貼り紹介した。

また、県立図書館のホームページにおいて、県政情報文書課の特定歴史公文書についてリンクが貼られ掲載された。

2 平成27年度に実施予定の取組

(1) 業務用掃除機の整備

これまでも書棚を雑巾がけ等で定期的に清掃しているが、虫やカビの養分となるホコリ・チリを除去するため業務用掃除機(図書館、博物館、美術館などでの使用を推奨されているクリーンルーム用)を整備する。

定期的な清掃を行うことで、虫に対して棲みにくい環境を作り、資料の保存に対して良好な環境を維持するといった予防強化方法を推進し、書庫のさらなる環境整備を図る。

(2) 松橋収蔵庫との連携

平成27年秋に「熊本県総合博物館ネットワーク（ ）」が始動するにあたり、松橋収蔵庫を「熊本県博物館ネットワークセンター（仮称）」として公の施設として位置づける予定なので、それに伴い県政情報文書課の特定歴史公文書の目録と「熊本県博物館ネットワークセンター（仮称）」（松橋収蔵庫）のホームページとのリンクを図る。（所管する文化企画課において検討中。）

（ ）参加する博物館全体でひとつの博物館のように機能することを目指し、県内の博物館に対するサポート機能、また、それぞれの連携体制を構築するネットワーク機能、それらをコーディネートするコアセンター、から構成される、新たな“熊本タイプ”の博物館のこと。

この取り組みに賛同する各種関係機関の協力の下、知的活動に「参加」する県民が増加し、さらに博物館「活動」を活発にすることで、県内の博物館とともに「成長」する博物館を目指している。

(3) 専門職員の任用

平成27年度から学芸員資格を有する非常勤職員1人を任用し、特定歴史公文書の目録作成、利用請求対応、資料のメンテナンス等の業務に従事させ、公文書館機能の強化を進める。

(4) その他

これまで実施してきた保存箱の整備、害虫対策や機器点検の保存環境の整備については取組みを継続する。

県立図書館等との連携（MLA連携）などのソフト対策については、連携強化の方策についてさらなる検討を行う。

3 特定歴史公文書の移管及び目録公表

(1) 移管状況

平成24年度	1,461冊
平成25年度	2,499冊
平成26年度	463冊
計	4,423冊

(2) 目録公表状況

平成25年7月	1,461冊
平成26年12月	2,251冊
平成27年3月	711冊
計	4,423冊